

高等学校 令和7年度（1学年用） 教科 国語 科目 現代の国語

教科： 国語 科目： 現代の国語 単位数： 2 単位

対象学年組：第 1 学年 A 組～ F 組

使用教科書：（ 新編 現代の国語」東京書籍 ）

教科 国語 の目標：

【知識及び技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。

【学びに向かう力、人間性等】言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目 現代の国語 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したり力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
			話・聞	書	読					
1 学 期	・単元「こそそめスープ」 村田 沙耶香 [知技] (1)ア、ウ、エ、オ [思判表] 読むこと(1)ア、イ	・筆者独自の考え方を読み取り、人それぞれが持つ意識の世界に思いをはせることができる。 ・「新編 現代の国語」、「常用漢字クリア」、ノート、プリント、「新国語便覧」			○	【知識及び技能】 言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。	○	○	○	5
	・単元「ルリボシカミキリの青」福岡 伸一 [知技] (1)ア、ウ、エ、オ [思判表] 読むこと(1)ア	・筆者の少年時代の体験について書かれた文章を読み、自分に当てはめて考える。			○	[知技] ・言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使っている。 ・実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文、話、文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解している。 [思判表] 「読むこと」において、文章の種類				5
	定期考査						○	○		1
	・単元「気になるニュースについて話そう」 [知技] (1)イ [思判表] 話すこと・聞くこと(1)ア、イ 話すこと・聞くこと(2)ア	・情報を整理し、内容や構成に注意して話す。 ・「新編 現代の国語」、「常用漢字クリア」、ノート、プリント、「新国語便覧」	○			[知技] ・話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さなどに配慮した表現や言葉遣いを使っている。 [思判表] ・「話すこと・聞くこと」において、自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫している。 [主] 積極的に情報の収集や整理を行い、理解しやすい内容構成や展開を工夫して、自分の考えを発表しようとしている。	○	○	○	6
	・単元「水の東西」 山崎 正和 [知技] (1)ア、ウ、エ、オ [思判表] 読むこと(1)ア	・「水」を巡る日本と西洋の文化の比較を通じて、日本文化の特質について理解を深める。 ・評論の書かれ方を理解し、読み方を知る。 ・要旨をまとめ、文章の要点を把握する指導事項 ・「新編 現代の国語」、「常用漢字クリア」、ノート、プリント、「新国語便覧」			○	[知技] ・実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解している。 [思判表] ・「読むこと」において、目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したり、自分の考えを深めている。 [主] 粘り強く筆者の考える「想像力」を理解し、学習課題に沿って実際の生活を見直し、情報社会における自己の在り方について考えを深め、話し合おうとしている。	○	○	○	6
	定期考査						○	○		1

2 学 期	・単元「「スキマが育む都市の緑と生命のつながり」塚谷裕一 [知技] (1)ア, ウ, エ, オ [思判表] 読むこと(1)ア, イ	・身近な植物を観察してきた成果を述べる文章を読み、提示された新しい視点について理解する。 ・「新編 現代の国語」、「常用漢字クリア」、ノート、プリント、「新国語便覧」	○	[知技] ・言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使っている。 ・文、話、文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解している。 [思判表] ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。 ・「読むこと」において、目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めている。 [主] ・粘り強く都市部の緑の在り方を述べた筆者の主張を理解し、学習課題に沿って生態系という新しい視点と資料との関連性を捉えながら自分の考えを深めようとしている。	○	○	○	7
	・単元「集めた情報の内容を検討して意見文を書こう」 [知技] (1)ウ, オ／(2)ア [思判表] 書くこと(1)ア, イ 書くこと(2)ア	・情報を集めて検討し、構成を工夫して意見文を書く。 ・「新編 現代の国語」、「常用漢字クリア」、ノート、プリント、「新国語便覧」	○	[知技] ・主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。 [思判表] ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、実社会から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にしている。	○	○	○	6
	定期考査				○	○		1
	・単元「鍋洗いの日々」 村上 信夫 [知技] (1)ア, ウ, エ, オ [思判表] 読むこと(1)ア	・自分の道を切り開いた筆者の体験談から、仕事に対する思いを読み取る。 ・「新編 現代の国語」、「常用漢字クリア」、ノート、プリント、「新国語便覧」	○	[知技] ・文、話、文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解している。 [思判表]「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握	○	○	○	3
	・「真夏のひしこ漁」 矢田 勝美 [知技] (1)ア, ウ, エ, オ [思判表] 読むこと(1)ア	・海での漁の様子を伝える文章を読み、自然の中での労働について理解を深める。 ・読書を通じて将来の職業や働き方を考える。 ・「新編 現代の国語」、「常用漢字クリア」、ノート、プリント、「新国語便覧」	○	[知技] ・文、話、文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解している。 [思判表]「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。 [主]	○	○	○	3
	・単元「発想を広げる方法を使って話し合おう」 [知技] (2)イ [思判表] 話すこと・聞くこと(1)ア, オ 話すこと・聞くこと(2)ウ	・発想を広げてアイディアを整理し、まとめる。 ・「新編 現代の国語」、「常用漢字クリア」、ノート、プリント、「新国語便覧」	○	[知技] ・主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。 ・個別の情報と一般化された情報との関係について理解している。 [思判表] ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述	○	○	○	7
	定期考査							1

3 学 期	・単元「美しさの発見」 高階 秀爾 [知技](1)ア, ウ, エ, オ [思判表]読むこと(1)ア, イ	・「美」という抽象的な題材について論じた文章を読み、その展開を論理的に捉え、筆者の価値観を理解する。 ・「新編 現代の国語」、「常用漢字クリア」、ノート、プリント、「新国語便覧」	○	[知技] ・言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使っている。 ・実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文、話、文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解している。	○	○	○	6
	・「真の自立とは」 鷲田 清一 [知技](1)ア, ウ, エ, オ [思判表]読むこと(1)ア 読むこと(2)ア	・「自立」の在り方について考察する文章を読み、自分の考えを持ち、視野を広げる。	○	[知技] ・言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使っている。 ・実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。	○	○	○	6
	・「資料を活用して発表しよう」 [知技](1)イ, オ [思判表]話すこと・聞くこと(1)ウ, エ 話すこと・聞くこと(2)エ	・発表の仕方や、話の聞き方を工夫する。	○	[知技] ・言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使っている。 ・実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。				5
	定期考査							1
								合計 70

高等学校 令和7年度（1学年用） 教科 国語 科目 言語文化

教科：国語 科目：言語文化 単位数：2 単位

対象学年組：第1学年 A組～ F組

使用教科書：（東京書籍 「新編言語文化」）

教科 国語 の目標：

【知識及び技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。

【学びに向かう力、人間性等】言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目 言語文化 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標 ※記号は学習指導要領と対応	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
			話・聞	書	読					
1 学 期	A 「美しい」ということ 【知識及び技能】 (1)ア、イ、ウ、エ 【思考力、判断力、表現力等】 読むこと(1)ア、オ 【学びに向かう力、人間性等】 筆者の経験と分析について理解し、学習課題に沿って「美しい」ということについて考える。	・筆者の経験と分析について理解し、「美しい」ということについて考える。 ・一人1台端末の活用			○	【知識・技能】 中間調査、小テスト 【思考・判断・表現】 ワークシート、定期考査 【主体的に学習に取り組む態度】 振り返りシート、宿題	○	○	○	5
	B 枕草子「うつくしきもの」 【知識及び技能】 (1)ア、ウ、エ／(2)ウ 【思考力、判断力、表現力等】 読むこと(1)ア、イ、オ 【学びに向かう力、人間性等】 自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、学習課題に沿って、「うつくしきもの」に共通する特徴を捉え、古今異義語について考える。	・作品の内容を自分と関係づけながら、ものの見方、感じ方、考え方を深める。 ・一人1台端末の活用			○	【知識・技能】 中間調査、小テスト 【思考・判断・表現】 ワークシート、定期考査 【主体的に学習に取り組む態度】 振り返りシート、宿題	○	○	○	5
	定期考査						○	○		1
	C 羅生門 【知識及び技能】 (1)ア、イ、ウ、エ 【思考力、判断力、表現力等】 読むこと(1)ア、オ 【学びに向かう力、人間性等】 描かれている内容についての見解をまとめ、学習課題に沿って、発表や討論を通じて得た他の意見も踏まえながら、考えを深める。	・極限状態にある登場人物の心情の変化を、場面の展開に即して読み取り、主題を考える。 ・一人1台端末の活用			○	【知識・技能】 中間調査、小テスト 【思考・判断・表現】 ワークシート、定期考査 【主体的に学習に取り組む態度】 振り返りシート、宿題	○	○	○	6
	D 羅城門 【知識及び技能】 (1)ア 【思考力、判断力、表現力等】 読むこと(1)エ、オ 【学びに向かう力、人間性等】 古典を元にして作られた作品についての理解を深め、学習課題に沿って、古典を元にして作られた作品と原作との違いや創作性について考える。	・古典を元にして作られた作品と、元の作品を読み比べ、理解を深める。 ・一人1台端末の活用			○	【知識・技能】 中間調査、小テスト 【思考・判断・表現】 ワークシート、定期考査 【主体的に学習に取り組む態度】 振り返りシート、宿題	○	○	○	6
	定期考査						○	○		1

2 学 期	E 伊勢物語「芥川」「筒井筒」 【知識及び技能】 (1)ア、ウ、エ／(2)ウ 【思考力、判断力、表現力等】 読むこと(1)ア、イ、ウ 【学びに向かう力、人間性等】 進んで歌物語の特徴や表現の仕方について理解し、学習課題に沿って、各章段に描かれた内容を的確に捉える。	・歌物語に描かれている内容を、叙述を基に的確に捉える。 ・一人1台端末の活用			○	【知識・技能】 中間調査、小テスト 【思考・判断・表現】 ワークシート、定期調査 【主体的に学習に取り組む態度】 振り返りシート、宿題	○	○	○	12
	定期調査						○	○		1
	G 夢十夜 【知識及び技能】 (1)ア、イ、ウ、エ 【思考力、判断力、表現力等】 読むこと(1)ア、ウ 【学びに向かう力、人間性等】 進んで文章の構成や展開、表現の特色などを捉え、学習課題に沿って、小説の中に展開する独自の世界を味わう。	・表現に即して小説を丁寧に読み味わい、そこに展開する独自の世界を味わう。 ・一人1台端末の活用			○	【知識・技能】 中間調査、小テスト 【思考・判断・表現】 ワークシート、定期調査 【主体的に学習に取り組む態度】 振り返りシート、宿題	○	○	○	7
	H デューク 【知識及び技能】 (1)ア、イ、ウ、エ 【思考力、判断力、表現力等】 読むこと(1)ア、ウ 【学びに向かう力、人間性等】 進んで文章の構成や展開、表現の特色などを理解し、学習課題に沿って、主人公の心情の変化を読み取り、表現に注意して話の展開を捉える。	・主人公の心情の変化を読み取り、細かい表現に注意して話の展開を捉える。 ・一人1台端末の活用			○	【知識・技能】 中間調査、小テスト 【思考・判断・表現】 ワークシート、定期調査 【主体的に学習に取り組む態度】 振り返りシート、宿題	○	○	○	7
	定期調査						○	○		1

[illegible]

年間授業計画 様式

高等学校 令和6年度（2学年用） 教科 国語 科目 古典探究

教科：国語

科目：古典探究

単位数：2 単位

対象学年組：第 2 学年 A 組～ G 組

教科担当：（田中）

使用教科書：（新編古典探究 東京書籍 みるみる覚る古文単語300+300いずな書店

教科 国語

の目標：

- 【知識及び技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする
- 【思考力、判断力、表現力等】論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- 【学びに向かう力、人間性等】言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

科目 古典探究

の目標：

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域		評価規準	知	思	態	配当 時数
			国・語	書・読					
1 学 期	宇治拾遺物語 【小野篁、広才のこと】 【知技】(1)ア、イ、ウ、エ／(2)ア、イ 【思判表】読むこと(1)ア、イ、ウ、オ	【小野篁、広才のこと】 1 帝の宴への疑いの原因と、その疑いを晴らしたものが、ともに篁の字子にあることを理解する。（手引き1） 2 言葉遊びのおもしろさがどこにあるかを読み取る。（手引き2） 3 「帝はは笑まされ給ひ、事なくてやみにけり。」となった理由を考える。（手引き3） □ 帝と篁のやりとりのおもしろさをまとめる。	○	○	【知技】 ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語感を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 【思判表】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。 【注】進んで古典特有の表現に注意して展開のおもしろさを体かい、学習課題に沿って、取組を正確に読み取りうと	○	○	○	4
	十訓抄 【知技】(1)ア、イ、ウ、エ／(2)ア、イ 【思判表】読むこと(1)ア、イ、ウ、オ	1 定額半納言の言動の内容を読み取る。（手引き1） 2 小式部内侍のつった行動を読み取る。（手引き2） 3 和歌文学、および和歌の技巧について理解する。 □ 登場人物の思いや状況、歌の工夫などを踏まえて、歌の良さを文章にまとめる。	○	○	【知技】 ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語感を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 【思判表】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。 【注】進んで和歌を含んだ語句を読み取り、学習課題に	○	○	○	4
	宇治拾遺物語 【知技】(1)ア、イ、ウ、エ／(2)ア、イ 【思判表】読むこと(1)ア、イ、エ、カ ○ 活読むこと(2)ア	□ 知っている説話を挙げ、特徴を確認する。 【空を飛ぶ鳥】 1 本文を音読する。 2 絵巻の描き部分と対応させながら内容を理解する。（手引き1） 3 話のおもしろさについて考える。（手引き2） □ 図書館やインターネットで、古典の説話等で法華が不思議な力を持ち発揮する語を検索する。 □ 各話について要約したり、特徴を表にまとめたかする。 □ 共通点等についてグループで話し合い、発表する。	○	○	【知技】 ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語感を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 【思判表】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 【注】進んで絵巻と本文とを関連付けて捉え、学習課題に	○	○	○	4
	徒然草【丹波に出雲といふ所あり】 【九月二十日のころ】 【知技】(1)ア、イ、ウ、エ／(2)ア、イ 【思判表】読むこと(1)ア、イ、ウ、カ ○ 活読むこと(2)ア	【丹波に出雲といふ所あり】 1 主語を確認しながら、話のあらすじを読み取る。 2 聖海上人の言葉の変化に沿って、その心情を読み取る。（手引き1） 3 この話のおもしろさは、どういうところにあるか説明する。（手引き2・3） 【九月二十日のころ】 1 主語に注意しながら、話のあらすじを読み取る。（手引き1） 2 人物の行動を整理する。（手引き1） 3 作者の「その人」に対する評価をまとめる。（手引き2・3） 4 絵の違いを見つけ、その違いについて考えたことを話し合う。（言語活動）	○	○	【知技】 ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語感を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 【思判表】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 【注】進んで各章段の構成や展開、内容を的確に捉え、学習課題に沿って作者のものの見方、感じ方、考え方を読み取るようにしている。	○	○	○	6
	『徒然草』と『玉葉間』を読み比べる 【知技】(1)ア、イ、ウ、エ／(2)ア、イ 【思判表】読むこと(1)エ、カ、ク ○ 活読むこと(2)イ	1 「花」や「月」における見解の違いを読み取りまとめる。（課題1） 2 「恋」における見解の違いを読み取りまとめる。（課題2） □ 随者文学としての『徒然草』の内容と文学的位置について理解する。	○	○	読む 【言語】『徒然草』と『玉葉間』を読み比べる P26 1 時間 【知技】(1)ア、イ、ウ、エ／(2)ア、イ 【思判表】読むこと(1)エ、カ、ク ○ 活読むこと(2)イ・随筆を読み比べ、作者の考え方の違いについて考察する。1 「花」や「月」における見解の違いを読み取りまとめる。（課題1） 2 「恋」における見解の違いを読み取りまとめる。（課題2）				2

2 学 期	小説一四編【蛇足】・【断簡】 【知技】(1)ア、イ、ウ/2ア、エ 【思判表】読むこと(1)ア、イ、ウ、エ ○ 話読むこと2ア 【知技】(1)ア、イ、ウ/2ア、エ 【思判表】読むこと(1)ウ、エ	【蛇足】 1本文を正しく音読する。 2脚注を参考にしながら本文を書き下し、現代語訳する。(手引き1) 3「あふさる足すやう」が酒を失った理由を考える。 4「蛇足」などの故事成語の意味や使い方を辞書で確認する。(手引き2・3) 【断簡】 1本文を正しく音読する。 2脚注を参考にしながら本文を書き下し、現代語訳する。 3桓公が「猿ノ子」を得た者を罷免した理由を考える。(手引き1) 4「断簡」という故事成語の意味や使い方を辞書で確認する。(手引き2) 【知言】 1本文を正しく音読する。 2脚注を参考にしながら本文を書き下し、現代語訳する。 3伯牙と鍾子期の関係を読み取る。(手引き1) 4「知言」という故事成語の意味や使い方を辞書で確認する。(手引き2) 【思判題】 1本文を正しく音読する。 2脚注を参考にしながら本文を書き下し、現代語訳する。(手引き1) 3「断簡生」が機嫌をへるために考えた計略について確認する。(手引き2) 4この話のおもしろさやがどのような点にあるのか話し合う。(手引き3) ○ 本単元の教材をもとにして生まれた故事成語や落語などについて知り、日本におけるさまざまな漢文受容について考える。	【知技】 ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やすことを通して、語感を磨き言葉感を養っている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辭などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読破することを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・先人のもの見方、感じ方、考え方を養いながら、自分のもの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 【思判表】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容の的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係性を踏まえて古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているもの見方、感じ方、考え方を踏まえて、人間、社会、自然などに對する自分の考えを広げたり深めたりしている。 ○ 主 進んでさまざまな漢詩を読み味わい、学習課題に沿って	10
	唐詩一八首 【知技】(1)ア、イ、エ/2ア、エ 【思判表】読むこと(1)ア、イ、エ、カ ○ 詩を声に出して読む。(手引き1) 3 それぞれの詩の内容を捉える。 4 唐詩の詩形、押韻、対句の表現について考える。(手引き3) 5 正確な現代語訳をする。 6 繰り返し朗読して唐詩の調べを理解し、暗唱する。(手引き1) 7 訳詩を試みる。	【知徳江】・【勸語】・【詩夜思】 1 それぞれの作者について理解する 2 詩を声に出して読む。(手引き1) 3 それぞれの詩の内容を捉える。 4 唐詩の詩形、押韻、対句の表現について考える。(手引き3) 5 正確な現代語訳をする。 6 繰り返し朗読して唐詩の調べを理解し、暗唱する。(手引き1) 7 訳詩を試みる。	【知技】 ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やすことを通して、語感を磨き言葉感を養っている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辭などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読破することを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・先人のもの見方、感じ方、考え方を養いながら、自分のもの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 【思判表】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容の的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係性を踏まえて古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているもの見方、感じ方、考え方を踏まえて、人間、社会、自然などに對する自分の考えを広げたり深めたりしている。 ○ 主 進んでさまざまな漢詩を読み味わい、学習課題に沿って	6
	方丈記 【知技】(1)ア、イ、ウ、エ/2ア、イ 【思判表】読むこと(1)ア、イ、ウ、カ ○ 全文を繰り返し音読し、その構成と内容を捉える。 2 「人」と「蛇」と、「ゆく河の流れ」と「淀みに浮かぶがたか」との類似点について考える。(手引き1) 3 「無常を学ぶま」とはどのようなことを踏まえて、「方丈記」で描かれる「無常観」について考える。(手引き2) ○ 作品の現代的意義について考える。	【方丈記】の内容と作者、時代背景についてまとめる。 【ゆく河の流れ】 1 全文を繰り返し音読し、その構成と内容を捉える。 2 「人」と「蛇」と、「ゆく河の流れ」と「淀みに浮かぶがたか」との類似点について考える。(手引き1) 3 「無常を学ぶま」とはどのようなことを踏まえて、「方丈記」で描かれる「無常観」について考える。(手引き2) ○ 作品の現代的意義について考える。	【知技】 ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やすことを通して、語感を磨き言葉感を養っている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辭などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読破することを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・先人のもの見方、感じ方、考え方を踏まえて、人間、社会、自然などに對する自分の考えを広げたり深めたりしている。 【思判表】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容の的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係性を踏まえて古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているもの見方、感じ方、考え方を踏まえて、人間、社会、自然などに對する自分の考えを広げたり深めたりしている。 ○ 主 進んで表現の特色に注意しながら作品の内容を解釈し、学習課題に沿って「方丈記」で描かれる「無常観」	8
	竹取物語 【知技】(1)ア、イ、ウ、エ/2ア、イ 【思判表】読むこと(1)ア、イ、エ、カ ○ 昔話としての「かぐや姫」について素早く読み取る。 ○ 作品全体についての解説を開き、概略を理解する。 ○ 「かぐや姫のかぐや姫」を音読し、古文の文を捉える。また、大きな内容を理解する。 ○ かぐや姫の誕生についてどのように描かれているか確認し、作品の伝奇的特徴について話し合う。 ○ 伝奇的特質に注目して、昔話などの話型を確認する。 ○ 全文を通読し、概略を捉える。 ○ かぐや姫の音節に注目し、その人物像について捉える。 ○ 「天の羽衣」は、かぐや姫にどのような変化をもたらしたか、考える。(手引き2) ○ 4 本文の意「羽衣伝説」を読み、知識を広げる。 ○ 【富士の山】 1 全文を通読し、概略を捉える。 2 全文を通読し、概略を捉える。 3 「富士の山」の名前のいわれについて、本文の内容をまとめる。(手引き2)	【昔話としての「かぐや姫」について素早く読み取る。 ○ 作品全体についての解説を開き、概略を理解する。 ○ 「かぐや姫のかぐや姫」を音読し、古文の文を捉える。また、大きな内容を理解する。 ○ かぐや姫の誕生についてどのように描かれているか確認し、作品の伝奇的特徴について話し合う。 ○ 伝奇的特質に注目して、昔話などの話型を確認する。 ○ 【天の羽衣】 1 全文を通読し、概略を捉える。 2 かぐや姫の音節に注目し、その人物像について捉える。 3 「天の羽衣」は、かぐや姫にどのような変化をもたらしたか、考える。(手引き2) 4 本文の意「羽衣伝説」を読み、知識を広げる。 ○ 【富士の山】 1 全文を通読し、概略を捉える。 2 全文を通読し、概略を捉える。 3 「富士の山」の名前のいわれについて、本文の内容をまとめる。(手引き2)	【知技】 ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やすことを通して、語感を磨き言葉感を養っている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辭などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読破することを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・先人のもの見方、感じ方、考え方を踏まえて、人間、社会、自然などに對する自分の考えを広げたり深めたりしている。 【思判表】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容の的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係性を踏まえて古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているもの見方、感じ方、考え方を踏まえて、人間、社会、自然などに對する自分の考えを広げたり深めたりしている。 ○ 主 進んで物語の内容を叙述に即して読み取り、学習課題に沿って物語に表れた人々の想いを捉えようとしている。	8

3 学 期	小倉百人一首の世界「小倉百人一首」より 【知技】(1)ア、イ、ウ、エ／(2)ア、イ、エ 【思判表】読むこと(1)ア、イ、ウ、カ、ク	□『小倉百人一首』の中で描かれている歌を挙げ、その意味を確認する。 □「小倉百人一首」の成立について、簡単に経緯を知る。 1 「君がため～」の歌について、筆者がこのように評価しているかを確認する。(手引き1 ①) 2 「ちはなふり～」の歌について、どのような情景を詠みだしたとされるかを確認する。(手引き1 ②) 3 「わが袖は～」の歌について、「神の石」のどのような状態を、どのような心情にたとえたのかを確認する。(手引き1 ③) 4 「めぐりあひて～」の歌について、月のような様子を、幼女達のどのような様子になどとされたのかを確認する。(手引き1 ④) 5 教科書に掲載文章が掲載された歌以外の和歌を鑑賞する。〔言語活動〕		○	○	6
	平家物語「堰の浦の戦い」 【知技】(1)ア、イ、ウ、エ／(2)ア、イ、エ 【思判表】読むこと(1)ア、イ、ウ、カ、ク 口語る読むこと(2)エ	1 全体の構成を意識しながら通読して、あらすじをつかむ。 2 第一段落と第二段落における、教経の展開の様子を読み取る。 3 教経がどのような人物として描かれているかを考える。(手引き1) 4 第三段落の知識の意図に着目し、知識がどのような人物として描かれているか、教経と対比しながら考える。(手引き1) 5 最後の場面の描写からどのような感じを受けるか話し合う。(手引き2) □「堰の浦の戦い」に描かれた、死に直面する人物が何を考えて、何を思っているのかをまとめる。 □激しい海上決戦の状況や人物の心情を意識して朗読する。〔言語活動〕 □「平家物語」から広谷文吾・芸術の諸語について考える。(古文の意3)	【知技】 ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を讀むために必要な語句の量を増やすことを通じて、語感を磨き読解力を高めていく。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や筋道、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辭などの表現的特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通じて、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を讀むために必要な文脈のさまりや調読のさまりについて理解を深めている。 ・先入ものの見方、感じ方、考え方を頼りに、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用にについて理解を深めている。 【思判表】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉え内容や解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 【主】 ・進んで和歌を多面的、多角的な視点から評価し、学習課題に合った読書文化についての自分の考えを発表しようとする。	○	○	8
	世間無算解 【知技】(1)ア、イ、ウ、エ／(2)ア、イ、エ 【思判表】読むこと(1)ア、イ、エ、カ	□近世西画とその作品、なかでも「商人カ」と呼ばれる作品について調べ、その特色を知る。 【鶴売り八郎】 1 「八郎」の人物像と、商売の方法を読み取る。(手引き1) 2 「鶴」の言葉の比喩的性質を考え、話の展開を確認する。(手引き2) 3 話の結末を踏まえ、どのような教訓が込められているのかを考える。(手引き3) 4 本文を音読し、文章のリズムを味わう。 □近世の文章の特色について考察する。 □小林一茶という作者や「おらが春」について調べ、大きな知識を得る。 【読みざし】 1 段落ごとに、きざぎざのように描かれているか整理する。(手引き2) 2 きざぎざに対する作者の思いを、たまための本文から考える。(手引き1・2) 3 本文に描かれた家族のありようから、作者の人生観を読み取る。 □本文の表現や内容について、印象に残った点をまとめる。 □全体の趣旨を通して、時代を経ても変わらない人間の心機について考えを深める。	【知技】 ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を讀むために必要な語句の量を増やすことを通じて、語感を磨き読解力を高めていく。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や筋道、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辭などの表現的特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通じて、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を讀むために必要な文脈のさまりや調読のさまりについて理解を深めている。 ・先入ものの見方、感じ方、考え方を頼りに、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用にについて理解を深めている。 【思判表】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉え内容や解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえたうえで古典とを鑑み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 【主】 ・進んで近世古典の形式や表現を味わい、学習課題に沿って定規通りに描かれた人々の生活や人物像を鑑み取らうとしている。	○	○	4
				○	○	
				○	○	
				○	○	

合計

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科 国語 科目 国語表現

教科：国語 科目：国語表現 単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 A組～G組

使用教科書：（東京書籍 国語表現、東京書籍 国語表現 ワークブック）

教科 国語 の目標：

【知識及び技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。

【思考力、判断力、表現力等】「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。

【学びに向かう力、人間性等】言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。

科目 国語表現 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
表現の特色について理解を深め、伝え合う目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを使い分けている。	自分の考えが読み手に明確に伝わるように、表現や構成を工夫して書いたり話したりしている。また、様々な題材の小論文に取り組むことで、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉によって自分の考えを形成したり新しい考えを生み出したりしようとしている。また、言葉を通じて他者や社会と関わり自他の存在について理解を深めようとしている。さらに、現代社会に関わる話題や問題に幅広く関心をもち、社会人として、考えやものの見方を豊かにしようとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
			話・ 聞	書	読					
1 学 期	表現とは何か 【知識及び技能】 ①ウ、エ 【思考力、判断力、表現力等】 A①ウ、エ、カ B①ウ、カ	・「表現とは何か」について考える。 ・表現を体験する。	○	○	○	【知識・理解】 ・自分の思いや考えを多彩に表現するために必要な語句量を増し、話や文章の中で使うことを通して、五感を磨き語彙を豊かにすること。①-ウ ・実用的な文章などの種類や特徴、構成や展開の仕方などについて理解を深めること。①-エ 【思考・判断・表現】 ・自分の思いや考えが伝わるよう、具体的例を効果的に配置するなど、話の構成や展開を工夫すること。A①-ウ ・相手の反応に応じて言葉を選んだり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の同意や共感が得られるように表現を工夫すること。A①-エ ・視点を明確にして聞きながら、話の内容に対する共感を伝えたり、相手の思いや考えを引き出したりする工夫をして、自分の思いや考えを広げたり深めたりすること。A①-カ ・読み手の共感が得られるよう、適切な具体例を効果的に配置するなど、文章の構成や展開を工夫すること。B①-ウ ・読み手に対して自分の思いや考えが効果的に伝わるように書かれているかなど吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特徴や課題を捉え直したりすること。B①-カ	○	○	○	10
	分かりやすく説明しよう 【知識及び技能】 ①イ、ウ 【思考力、判断力、表現力等】 A①ア、ウ、エ B①カ	・情報を整理し、「相手」「内容」「目的」「状況」に応じて分かりやすく伝える方法を身につける。 ・学習を通して得られた「分かりやすく説明する方法」を、日常生活においても状況に応じて使えるようにする。	○	○		【知識・理解】 ・話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色について理解を深め、伝えある目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し、使い分けること。①-イ ・自分の思いや表現を多彩に表現するために必要な語句の力を増し、話しや文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。①-ウ 【思考・判断・表現】 ・目的や場に応じて、実社会の問題や自分にかかわる事柄の中から話題を決め、他者との多少な交流を想定しながら情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討すること。A①-ア ・自分の思いや考えが伝わるよう、具体例を効果的に配置するなど、話の構成や展開を工夫することA①-ウ ・相手の反応に応じて言葉を選んだり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の同意や共感が得られるように表現を工夫すること。A①-エ ・読み手に対して自分の思いや考えが効果的に伝わるように書かれているかなど吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特徴や課題を捉え直したりすること。B①-カ	○	○	○	14

高等学校 令和7年度（2 学年用） 教科 国語 科目 論理国語

教 科： 国語 科 目： 論理国語 単位数： 単位 2

対象学年組：第 2 学年 A 組～ G 組

使用教科書：（ 大修館書店 新編論理国語 ）

教科 国語 の目標：

- 【知 識 及 び 技 能】生涯にわたる社会生活に必要な 国語について、その特質を理 解し適切に使っている。
- 【思考力、判断力、表現力等】「話すこと・聞くこと」、「書く こと」、「読むこと」の各領域に おいて、生涯にわたる社会生活 における他 者との関わりの中 で伝え合う力を高め、自分の思 いや考えを広げたり深めたり している。
- 【学びに向かう力、人間性等】言葉を通じて積極的に他者と 関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めよう としているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとして いる。

科目 論理国語 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
他者と関わる現実の社会において必要な国語の知識や技能について理解し、それを適切に使おうとしている。	論理的に考えることに加え、章や資料を対象化して、その正誤や適否を吟味したり検討したりしながら考えている。また、他者の考えと自分の考えを吟味したり検討したりすることを通して、自分で新しい考えを生み出そうとしている。さらに、状況や場面に応じた他者との関わりの中で、必要な事柄を正確に伝え、相手の意向を的確に捉えて解釈したり、効果的に表現したりしている。	言葉によって自分の考えを形成したり新しい考えを生み出したりしようとしている。また、言葉を通じて他者や社会と関わり自他の存在について理解を深めようとしている。さらに、現代社会に関わる話題や問題に幅広く関心を持ち、生涯にわたる読書習慣の基礎を築き、社会人として、考えやものの見方を豊かにしようとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
			話・聞	書	読					
1 学 期	知の登山、知の水路 【知・技】 (1)エ 【思・判・表】 B (1)ア	・「学ぶ」ことについての筆者の考えを読み取る。 ・これからの学習で取り組みたいこと、興味のあることについて考える。			○	【知識・技能】 ・効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開のしかたについて理解を深めている。【(1)エ】 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、内容や構成、論理の展開などを的確にとらえ、論点を明確にしながら要旨を把握している。【B (1)ア】 【主体的に学習に取り組む態度】 ・学ぶことについての筆者の考えを読み取ることに興味をもち、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようとしている。	○	○	○	5
	「論理的な人」とはどういう人か 【知・技】 (1)イ 【思・判・表】 B (1)ア	・「論理」についての筆者の考えを読み取る。 ・筆者の主張をふまえ、これからの学習に興味をもつ。			○	【知識・技能】 ・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。【(1)イ】 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、文章の内容や構成、論理の展開などを的確にとらえ、論点を明確にしながら要旨を把握している。【B (1)ア】 【主体的に学習に取り組む態度】 ・論理についての筆者の考えを読み取ることに興味をもち、論理的に考える力を伸ばそうとしている。	○	○	○	6
	定期考査				○		○	○		1
	突然変異と進化の関係 【知・技】 (1)イ (2)イ 【思・判・表】 B (1)ア	・具体と抽象の関係を意識しながら、筆者の主張を読み取る。			○	【知識・技能】 ・具体と抽象を示す語句や表現を理解し、文章を読む中で具体と抽象の関係をとらえる助けとしている。【(1)イ】 ・情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深めている。【(2)イ】 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、具体と抽象の関係に注目し、内容や構成、論理の展開などを的確にとらえ、論点を明確にしながら要旨を把握している。【B (1)ア】 【主体的に学習に取り組む態度】 ・具体と抽象の関係を的確にとらえながら、筆者の主張を読み取ろうとしている。	○	○	○	6
	ウサギの耳はなぜ長い？ 【知・技】 (1)イ (2)イ 【思・判・表】 B (1)ア	・具体例の役割を意識して本文を読み、論理の展開をとらえる。 ・文章の構成や接続表現に注目しながら、筆者の主張を読み取る。			○	【知識・技能】 ・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。【(1)イ】 ・情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深めている。【(2)イ】 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、文章の種類をふまえて、内容や構成、論理の展開などを的確にとらえ、論点を明確にしながら要旨を把握している。【B (1)ア】 【主体的に学習に取り組む態度】 ・共進化についての筆者の考えを読み取ることに興味をもち、具体と抽象の関係をとらえようとしている。	○	○	○	6
	定期考査				○		○	○		1
	米の種類と食文化 【知・技】 (1)イ 【思・判・表】 B (1)ア	・具体と抽象の関係を意識しながら、筆者の主張を読み取る。			○	【知識・技能】 ・対比を示す語句や表現を理解し、文章を読む中で対比の関係をとらえる助けとしている。【(1)イ】 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、対比の関係に注目し、内容や構成、論理の展開などを的確にとらえ、論点を明確にしながら要旨を把握している。【B (1)ア】 【主体的に学習に取り組む態度】 ・対比の関係を的確にとらえながら、筆者の考えを読み取ろうとしている。	○	○	○	6

2 学 期	対話の精神 【知・技】 (1)イ 【思・判・表】 B (1)ア	・対比の役割を意識して本文を読み、論理の展開をとらえる。 ・文章の構成や接続表現に注目しながら、筆者の主張を読み取る。			○	【知識・技能】 ・対比を示す語句、接続表現に注目しながら文章を読み、対比関係や論理展開をとらえる助けとしている。〔(1)イ〕 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、対比の関係に注目し、内容や構成、論理の展開などを的確にとらえ、論点を明確しながら要旨を把握している。〔B (1)ア〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・コミュニケーションについての筆者の考えを読み取ることに興味をもち、対比の関係をとりえようとしている。	○	○	○	6
	定期考査				○		○	○		1
	文化としての科学 【知・技】 (1)イ (2)ア 【思・判・表】 B (1)ア	・主張と根拠の関係を意識しながら、筆者の主張を読み取る。			○	【知識・技能】 ・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。〔(1)イ〕 ・主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めている。〔(2)ア〕 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、文章の種類をふまえて、内容や構成、論理の展開などを的確にとらえ、論点を明確にしながら要旨を把握している。〔B (1)ア〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・主張と根拠の関係を的確にとらえながら、筆者の考えを読み取ろうとしている。	○	○	○	6
	「考える葦」であり続ける 【知・技】 (1)イ (2)ア 【思・判・表】 B (1)ア・ウ	・筆者の主張と、それを支える根拠の役割を的確にとらえる。 ・文章の構成や論理の展開に注意しながら、要旨を把握する。			○	【知識・技能】 ・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。〔(1)イ〕 ・主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めている。〔(2)ア〕 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、文章の種類をふまえて、内容や構成、論理の展開などを的確にとらえ、論点を明確にしながら要旨を把握している。〔B (1)ア〕 ・「読むこと」において、主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈している。〔B (1)ウ〕 【主体的に学習に取り組む態度】	○	○	○	6
3 学 期	量の時代から質の時代へ 【知・技】 (1)イ 【思・判・表】 B (1)イ	・さまざまな統計資料を本文と関連づけながら読む。 ・統計資料と筆者の主張の関係を的確にとらえる。			○	【知識・技能】 ・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。〔(1)イ〕 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、文章と資料との関係を把握し、内容や構成を的確にとらえている。〔B (1)イ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・消費意識についての筆者の考えを読み取ることに興味をもち、文章と資料の関係をとりえようとしている。	○	○	○	6
	定期考査				○		○	○		1
	紙の本はなくなる 【知・技】 (1)イ 【思・判・表】 B (1)ウ	・異なる立場の文章を比べて読み、考えを深める。 ・対比の役割を意識して本文を読み、論理の展開をとらえる。			○	【知識・技能】 ・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。〔(1)イ〕 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈している。〔B (1)ウ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・情報を的確に比較・整理しながら、紙の本についての筆者の考えを読み取ろうとしている。	○	○	○	6
	情報化と紙の本のゆくえ 【知・技】 (1)イ 【思・判・表】 B (1)ウ	・異なる立場の文章を比べて読み、考えを深める。 ・具体例の役割や根拠に注意しながら筆者の主張を読み取る。			○	【知識・技能】 ・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。〔(1)イ〕 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈している。〔B (1)ウ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・情報を的確に比較・整理しながら、情報化社会についての筆者の考えを読み取ろうとしている。	○	○	○	6
	定期考査				○		○	○		1
										合計
										70

[illegible]

3 学 期	「速度礼賛から時の成熟へ」黒崎政男	・問題題から解法を用いながら読解することができる。 ・常用漢字を文章で使ったり、読んだりすることができる。 ・歴史と文学・科学者について理解を深める。 ・実際に共通テストの過去問に取り組み、実践を行う。	○	○	・論議したり学術的な学習の基礎を学んだらするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き知識を豊かにしている。 ・文や文章の効果的な組み立てや接続の仕方について理解を深めている。 ・新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めている。	○	○	○	4
	「詩の中の風景」石垣りん		○	○	・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握している。 ・「読むこと」において、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価している。 ・「読むこと」において、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めている。	○	○	○	4
	「独楽」伊万智		○	○	・「読むこと」において、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価している。 ・「読むこと」において、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めている。	○	○	○	4
	共通テスト演習					○	○	○	2
	学年末考査								1
合計									
70									

日期	
70	

教 科：国語 科 目：現代文発展演習β 単位数： 2 単位
対象学年組：第 3 学年 A 組～ F 組
使用教科書：（プログレス現代文総演習発展編 いいずな書店 ほんもの力がつく現代語練習帳 いいずな書店）
教科 国語 の目標：

【知識及び技能】・文章の種類を把握し、それに合わせた解き方を理解する。

【思考力、判断力、表現力等】・論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深める。

科目 現代文発展演習β の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
- 文章の種類を把握し、それに合わせた解き方を理解する。 - 評論、小説等の特徴を踏まえたうえで問題を解くことができた。	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他との関わりの中で伝える力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようになる。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深める。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域		評価規準	知	思	態	配当 時数
		国 語	書 読					
『日本のデザイン』 原研哉	・評論文・小説・随筆という文章の種類の特徴を踏まえて文章を読解する。 ・基本的な論理構成について理解し、語句を読解する。 ・常用漢字程度の漢字を読み、書く。 ・語彙力を増やすよう、自分で語の意味を調べる。	○	○	【知識】 ・施設したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要の語句の義を理し、文章の中で使ったことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深めている。 ・新たな文考の構図に資する読書の意義と効用について理解を深めている。 【読解力】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構図、論理の展開などの構図に促し、論点を明確にしながら要旨を把握している。 ・「読むこと」において、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的、多角的な視点から評価している。 ・「読むこと」において、人間、社会、自然などについて、文章の内容や構図を多様な観点から考える関係性に基づいて、新たな観点から自分の考えを深めている。 【上】 取り扱う哲学的視点に立った語句の意味や筆者の思考の筋道をつかみ、今までの学習を生かして自己の知識や読書経験と関連付けて考えられる。	○	○	○	2
『『本当の自分』の現象学』山竹伸二		○	○		○	○	○	2
『探の王様』開高健	・小説において登場人物の心情を読み取る。 ・小説の主題を把握し、自分なりに解釈を行う。	○	○		○	○	○	2
『コミュニケーションという方法論』大井玄	・基本的な論理構成について理解し、語句を読解する。 ・常用漢字程度の漢字を読み、書く。 ・語彙力を増やすよう、自分で語の意味を調べる。	○	○	【知識】 ・施設したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要の語句の義を理し、文章の中で使ったことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深めている。 ・新たな文考の構図に資する読書の意義と効用について理解を深めている。 【読解力】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構図、論理の展開などの構図に促し、論点を明確にしながら要旨を把握している。 ・「読むこと」において、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的、多角的な視点から評価している。 ・「読むこと」において、人間、社会、自然などについて、文章の内容や構図を多様な観点から考える関係性に基づいて、新たな観点から自分の考えを深めている。 【上】 取り扱う哲学的視点に立った語句の意味や筆者の思考の筋道をつかみ、今までの学習を生かして自己の知識や読書経験と関連付けて考えられる。	○	○	○	2
『科学は今どうなっているのか』池内了		○	○		○	○	○	2
『犀鳥』遠藤周作		○	○		○	○	○	2
『『正義』』久石譲	・評論文・小説・随筆という文章の種類の特徴を踏まえて文章を読解する。 ・基本的な論理構成について理解し、文章を読解する。 ・常用漢字程度の漢字を読み、書く。 ・語彙力を増やすよう、自分で文章を調べる。	○	○	【知識】 ・施設したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要の語句の義を理し、文章の中で使ったことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深めている。 ・新たな文考の構図に資する読書の意義と効用について理解を深めている。 【読解力】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構図、論理の展開などの構図に促し、論点を明確にしながら要旨を把握している。 ・「読むこと」において、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的、多角的な視点から評価している。 ・「読むこと」において、人間、社会、自然などについて、文章の内容や構図を多様な観点から考える関係性に基づいて、新たな観点から自分の考えを深めている。 【上】 取り扱う哲学的視点に立った語句の意味や筆者の思考の筋道をつかみ、今までの学習を生かして自己の知識や読書経験と関連付けて考えられる。	○	○	○	2
『ひとと遊び』河野裕子	・読書における筆者の体験や主張を読み解く	○	○		○	○	○	2
『感性は感動しない』橋木野衣		○	○		○	○	○	3
期末考査					○	○	○	1

2 学 期	『異文化理解』青木保	・問題演習を通して、解法を身につける。 ・基本的な論理構成について理解し、文章を読解する。 ・常用漢字程度の漢字を読み、書く。 ・語彙力を増やすよう、自分で語の意味を調べる。 ・小論文の基本的な書き方を理解する。 ・実際に共通テストの過去問に取り組み、自身の理解度と問題点を洗い出す。	○	○	○	○	3
	共通テスト演習						
	『汚点』井上ひさし	・問題演習で解法を用いながら読解することができる。 ・馬場あき子という作者の背景を理解し、読解を行う。 ・常用漢字を文章で使ったり、読んだることができる。 ・統読詞の性質について理解する。 ・登場人物の心情変化を把握する。	○	○	○	○	3
	『歌よみの眼』馬場あき子						
	『風味絶佳』山田詠美						
3 学 期	中間調査						1
	「ネーションとステートの間」山崎正和	・問題演習で解法を用いながら読解することができる。 ・常用漢字を文章で使ったり、読んだることができる。 ・国家・資本主義・個人について理解を深める。	○	○	○	○	3
	「中世の世界とは何だろうか」網野善彦						
	「天地友情」南木佳士						
	『感覚の幽い風景』鷺田清一						
	共通テスト演習						
	期末調査						
3 学 期	「ネーションとステートの間」山崎正和	・問題演習で解法を用いながら読解することができる。 ・常用漢字を文章で使ったり、読んだることができる。 ・国家・資本主義・個人について理解を深める。 ・試験を想定し、時間を決めて集中して問題に取り組む姿勢を養う。 ・小説、評論、随想の読み解き方を理解する。	○	○	○	○	3
	「キャベツ人形の資本主義」岩井克人						
	「伝統・創造」梅原猛	・問題演習で解法を用いながら読解することができる。 ・常用漢字を文章で使ったり、読んだことができる。 ・歴史と文学・科学者について理解を深める。 ・実際に共通テストの過去問に取り組み、実践を行う。	○	○	○	○	3
	「植物はなぜ動かないのか」塩垣栄伴						
	『科学・技術の歴史のなかでの社会』村上陽一郎						
	共通テスト演習						
	学年末調査						
合計							1

高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 国語

教科： 国語 科目： 国語表現 単位数： 2

対象学年組：第 3 学年 A 組～ F 組

使用教科書：（ 東京書籍 国語表現、 東京書籍 国語表現 ワークブック

教科 国語 の目標：

【知識及び技能】 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会に
め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己
深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

科目 国語表現 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域		
		話・聞	書	読
「自分」を表現しよう ・自己分析を行い、第三者の意見も踏まえて、客観的に「自分」を把握する。 ・志望理由書・履歴書の作成、模擬面接などで、相手に伝わるように「自分」を表現する。	<第1時> フロントページ 1 単元冒頭のリード文（教科書P. 66）を読み、面接・自己PRのポイントを確認する。 2 ジョハリの窓について説明を聞く。 3 ワークシートを使用して、グループでジョハリの窓に取り組む。 4 自分が認識している自分と、他人から見た自分とにはズレがあることを確認する。 <第2時> ステップ①自分のことをよく知る 1 リフレーミングの説明と例（教科書P. 68）を読み、短所をリフレーミングすることで自分のアピールポイントを探すことを確認する。 2 ワークシートを使って、ペアでリフレーミングに取り組む。終わったらペアを変えて繰り返す。 3 何事も見方を変えることで別の側面が見えてくることを確認する。 <第3～4時> 1 「問い」で自己分析をするやり方（教科書P. 69）を読んで、自分の魅力探しを確認する。 2 まずは自問自答して、「問い」への答えを書いてみる。 3 ペアを作って、お互いが相手に「問い」を投げかけ、答えを言う。聞			[知技] ・話し言葉と書について理解を手、手段に応じし、使い分けて ・自分の思いやな語句の量を増して、語感を磨 ・実用的な文章仕方などについて [思判表] ・「話すこと・ 応じて、実社会ら話題を決め、ら情報を収集、 ている。 ・「話すこと・ の合理性が伝わるとともに、 を考えるなど、 ・「話すこと・ や考えが伝わるなど、話の構成 ・「話すこと・ に応じて言葉をや機器を効果的 や共感が得られ ・「話すこと・ にして自分の考や構成、論理の もに、聞き取っ

き手が説明に納得できるか評価する。

4 代表者がクラスの前に出て発表する。

5 自分の進路や生き方を考えるには自己分析が重要であることを確認する。

＜第5～6時＞

ステップ②相手のことをよく知る

1 教科書P. 70を読んで、就職や進学を希望する企業や学校の情報を集める必要があることを確認する。

2 志望する企業や学校を探すため、自分のやりたいことや興味のあることをワークシートに記入する。

3 情報収集のやり方・注意点について説明を聞く。

4 実際に情報収集をして、調べたことをまとめる。

5 今後も志望先が見つければ自分で情報収集することを確認する。

＜第7～8時＞

ステップ③相手に魅力が伝わるように表現する

1 教科書P. 70～71を読んで、企業・学校と自分のマッチングが重要であることを確認する。

2 志望する企業・学校の「求める人材像」と自分の共通点（＝アピールポイント）を探し、ワークシートにまとめる。できれば複数作成する。

3 ペアになって自己PRを行い、互いに評価する。

4 志望先に合わせてアピールポイントを変える必要があることを確認する。

＜第9～10時＞

1 教科書P. 72～75を読んで、就職や総合型・学校推薦型選抜ではそれぞれどのような書類を作成するのか確認する。

2 志望の動機（志望理由）の書き方について説明を聞く。

3 志望の動機（志望理由）を文章の形で書く。ペアで内容を確認する。

4 志望の動機（志望理由）を含めて、提出書類を作成する。

5 志望先によって書類を書き分ける必要があることを確認する。

＜第11時＞

ステップ④面接の準備をする

1 教科書P. 76を読んで、面接のマナーを確認する。

2 面接のマナーや注意点について説明を聞く（映像DVD-ROMの活用を推奨）。

3 ノックや着席の動作などを実際に行う。

4 模擬面接につながる練習であることを確認する。

＜第12～13時＞

1 教科書P. 77を読んで、模擬面接のやり方を確認する。

2 「志望動機」「自己PR」を口頭で述べる際の注意点について説明を聞く（映像DVD-ROMの活用を推奨）。

3 グループで模擬面接を行う。面接官役、志願者役を決めて、交替で行う。他の人は評価をする。交替時、

げたり深めたり

・「書くこと」

実社会の問題や題材を決め、情伝えたいことを

・「書くこと」

るよう、適切な反論などを想定文章の展開や構

・「書くこと」

るよう、適切な文章の構成や展

・「書くこと」

し、根拠となる表現の仕方を工

・「書くこと」

思いや考えが効かななどを吟味しからの助言など課題を捉え直し

〔主〕自分を表をもって聞いたなことを粘り強て表現を改善し

○ ○ ○

	フィードバックを行う。 4 人物設定を取り入れた模擬面接を行い、その効果をグループで話し合う。 5 面接のポイント、注意点について確認する。 ＜第14～15時＞ 1 教科書P. 78～79を読んで、さまざまな面接の形式があることを確認する。 2 面接形式ごとの特徴や注意点について説明を聞く（映像DVD-ROMの活用を推奨）。 3 面接形式に応じた対策の仕方を確認する。 ＜第16時＞ 表現の窓「人前で表現するのが苦手なあなたへ」 1 教科書P. 80～81を読んで、本文の内容を確認する。 2 本文の構成・趣旨を確認する。 3 「表現すること」の意味についてグループで話し合い、発表する。 4 単元全体のリフレクションをする。 ＊この教材には、面接指導用の映像DVD-ROMと、関連するデジタルコンテンツが用意されているので、適宜利用するとよい。			
論理的な文章を書こう スキルアップ ……文章修正ワーク スキルアップ ……パラグラフ・ライティング ・小論文を書くことを通して、与えられたテーマに対して自分の考えを明確にする力と、論理的で説得力のある文章を書く力を身につける。 ・現代社会のトピックに対して、問題発見・課題分析を行い、問題解決能力を養う。	＜第1時＞ フロントページ 1 単元冒頭のリード文（教科書P. 82）を読み、小論文のポイントを確認する。 2 主張には根拠が必要であることを確認する。 3 ワークシートを使用して、グループで「小論文の主張と根拠」に取り組む。 4 説得力のある根拠とはどのようなものか、小論文にふさわしい表現の形とはどのようなものかを確認する。 ＜第2時＞ 小論文のタイプ 1 小論文にはさまざまなタイプ（出題形式）があること、試験では時間配分と制限字数に注意することを確認する。 2 教科書P. 84～85の「小論文のタイプ」を読み、テーマ型、課題文型、データ分析型、自己PR型、それぞれの特徴を理解する。 3 教科書P. 84下段の「試験本番での取り組み方」を読み、時間配分を目安や文字数の目安を確認する。 4 教科書P. 85下段の「小論文のテーマの例」を読み、どのようなテーマが出題されるのかを確認する。 5 小論文では現代的な課題について問われるので、日頃から新聞や本を読むことが大切であることを確認する。 ＜第3～8時＞ A テーマ型小論文 ステップ① 自分の考えを掘り下げ、主張としてまとめる			[知技] ・言葉には、自があることを理 ・話し言葉と書について理解を手、手段に応じし、使い分けて ・自分の思いやな語句の量を増して、語感を磨 ・実用的な文章仕方などについて [思判表] ・「書くこと」 実社会の問題や題材を決め、情伝えたいことを ・「書くこと」 るよう、適切な反論などを想定文章の展開や構 ・「書くこと」 るよう、適切な文章の構成や展 ・「書くこと」 し、根拠となる表現の仕方を工 ・「書くこと」 思いや考えが効かななどを吟味しからの助言など課題を捉え直し [主] 小論文を主張を組み立てとを粘り強く理の文章を改善し

- 1 教科書P. 86を読んで、テーマ型小論文では、与えられたテーマについて「自問自答」をしながら、考えを述べることを確認する。
 - 2 ワークシートを使用して、「問い」を立てる練習をする。教科書P. 87を参考に、マッピングも実践してみる。
 - 3 ワークシートを使用し、問題提起と主張をそれぞれ一文で表す。
- ステップ② 根拠を挙げ、反論で補強する
- 4 教科書P. 88～90を読む。ワークシートを使用して、根拠を挙げ、反論で補強するペアワークをする。
- ステップ③ 構成メモを作る
- 5 教科書P. 91の「構成メモの例」を読む。ワークシートを使用して、構成メモを作る。ペアワークで確認する。
- ステップ④ 執筆・推敲する
- 6 教科書P. 92～93の「小論文完成例」と下段の「ポイント」を読む。ワークシートを使用して、推敲の練習をする。
 - 7 ワークシートを使用して、小論文を執筆・推敲する。
 - 8 小論文の評価について学び、ペアワークで評価し合う。
 - 9 テーマ型小論文作成の流れを振り返って確認する。
- <第9～12時>
- B 課題文型小論文
- 1 課題文型小論文では、課題文の主旨を踏まえて、自分の考えを述べることを確認する。
 - 2 課題文（教科書P. 98）を読み、内容を確認する。
 - 3 ワークシートを使用して、課題文の要旨をまとめ、論点を挙げる。教科書P. 99を読んで確認する。
 - 4 論点に関する具体例を挙げる。
 - 5 教科書P. 100～101の「小論文完成例」を読み、構成を参考にする。構成メモを作り、ペアワークで確認する。
 - 6 ワークシートを使用して、小論文を執筆・推敲する。
 - 7 小論文の評価を行う。
 - 8 課題文型小論文作成の流れを振り返って確認する。
- <第13～16時>
- C データ分析型小論文
- 1 教科書P. 102下段を読んで、データ分析型小論文では、グラフや表を踏まえて自分の考えを述べることを確認する。
 - 2 図表の読み取り方について学習する。
 - 3 図1～図3（教科書P. 102～103）の読み取りをする。
 - 4 教科書P. 104を読んで、三つの図表を合わせて考えることを確認する。グループを作り、図1～図3から何が論点となるかを話し合う。
 - 5 教科書P. 105の「小論文完成例」を読む。構成メモを作成する。
 - 6 ワークシートを使用して、小論文

		を執筆・推敲する。 7 小論文の評価を行う。 8 データ分析型小論文作成の流れを振り返って確認する。 ＜第17～18時＞ D 自己PR型小論文 1 教科書P. 106を読んで、自己PR型小論文では、経験や実績などを具体例として挙げながら、自分の長所や思いを述べることを確認する。 2 自分の長所を複数挙げ、それを表すエピソードを探す。 3 教科書P. 107の「小論文完成例」を読み、構成を確認する。 4 構成メモを作成し、ペアで確認する。 5 小論文を執筆・推敲する。 6 小論文の評価を行う。 7 自己PR型小論文作成の流れを振り返って確認する。 ＜第19～20時＞ 表現の窓「リンクを張る能力の鍛え方」 1 教科書P. 110～111を読んで、本文の内容を確認する。 2 本文の構成・趣旨を確認する。 3 「リンクを張る能力」についてグループで話し合い、発表する。 4 単元全体のリフレクションをする。			
	話し合う力をつけよう ・合意形成を目的とする話し合いの展開パターンと、それを支えるファシリテーションの概念および基本的なスキルを学ぶ。 ・災害避難所でのコミュニケーションにおける意見対立を描いた脚本をもとに、協働的問題解決を目指す話し合いをシミュレーションする。	＜第1時＞ フロントページ 1 話し合いの経験を振り返り、グループもしくはクラスで共有する。 2 フロントページ（右ページ）を読み、話し合う意義と目的、ファシリテーションの概念を確認する。 3 1で振り返った話し合いについて、「ウォーミングアップ」の図の○A・○Bに当てはまるものがあつたか、また、なぜそのような話し合いになったかを発表し合う。 4 話し合いの意義、目的、機能を押さえ（カードやノートに書き出し）、次回からの学習展開を共有する。 ＜第2時＞ 話し合いの基本的な展開 1 教科書に示された「1世帯→2世帯			【知技】 ・話し言葉と書について理解を手、手段に応じし、使い分けて ・自分の思いやな語句の量を増して、語感を磨 ・省略や反復なめ使っている。 ・自分の思いやにする読書の意 る。 【思判表】 ・「話すこと・応じて、実社会ら話題を決め、ら情報を収集

散→3 収束・合意形成→4 確認」を読んで基本の流れを押さえる。

2 各教科や部活動、あるいは地域の自治会などで実際に進行中もしくはこれから予定されている話し合いや会議（「文化祭のクラス展示について」「地域防災活動の活性化について」「お盆休みの家族旅行について」など）を例に、「1 収束」から「4 確認」までのプロセスをシミュレーションする。

3 シミュレーション終了後に、出されたファシリテーションのポイントをクラス全体で確認する。

＜第3時＞

ファシリテーションの実践例を考える

1 被災地の避難所生活にまつわる知識・情報を共有する。

2 教科書P. 116～118のシナリオを読む。

3 生じている問題について、意見の対立を中心に把握し、その原因となっている物理的現象および人物の言動を洗い出す。

4 問題解決の方向性を、登場人物の言動の面から探る。

5 ファシリテーションの意義と目的を再確認する。

＜第4時＞

表現の窓「スポーツと同じように議論にもルールがある」

1 スポーツのルールにまつわる知識や体験を共有する。

2 教科書P. 124～125の「表現の窓」の文章を読み、要旨を捉える。

3 避難所の話し合いに必要な「ルール」を考える。

4 3で考えたルールを今後のシナリオ作りの参考にすることを確認する。

＜第5時＞

表現の窓「同じ論拠から多様性を見いだすには」

1 自分と他人とで「常識が違う」と感じた体験を共有する。

2 教科書P. 126～127の「表現の窓」の文章を読み、要旨を捉える。

3 避難所の生活において、ぶつかり合う「常識」を考える。

4 3で考えたことを今後のシナリオ作りの参考にすることを確認する。

＜第6～7時＞

ファシリテーションの実践例を考える

1 教科書P. 116～118のシナリオを再読する。

2 グループに分かれて、教科書P. 117以降のシナリオについて、対立を最小限にとどめ、合意形成のもと問題解決に向かうものを書き換える。

3 発表時までにはリハーサルをしておくことを指示する。

＜第8～9時＞

1 話し合いを演劇の形でシミュレーションすることのねらいと意義を確認する。

2 グループごとに発表を行う。発表後、意見・感想を交流する。

3 教科書P. 114～115下段に掲載された「ファシリテーターの心得」を再

○ ○ ○

ている。

- ・「話すこと・や考えが伝わるなど、話の構成
- ・「話すこと・に応じて言葉をや機器を効果的や共感が得られ
- ・「話すこと・にして聞きながたり、相手の思をして、自分の
- ・「話すこと・や論拠を吟味しけたりするためげたり深めたりの出し方を工夫
- ・「書くこと」実社会の問題や題材を決め、情伝えたいことを
- ・「書くこと」るよう、適切な文章の構成や展
- ・「書くこと」確にし、事象をなど、表現の仕

[主] 本を紹介今までの学習を容への理解を深したりしようと

	度読み，話し合いのメンバー一人一人がファシリテーションを身につけて，それを活用することが理想的であることを共有する。 <第10時> いろいろな話し合い 1 話し合いや会議には（人間の知恵や文化として）いろいろな形態があることを，教科書の例を見ながら学習する。 2 パネルディスカッションやディベート，ワールドカフェなどの体験を問うたり，実際の様子が分かる動画を視聴したりする。 3 単元全体のリフレクションを行う。 ＊この教材には，関連するデジタルコンテンツが用意されているので，適宜利用するとよい。			
表現と読書活動 ・本を紹介し合う活動を通して，さまざまな本と出会い，読書の楽しみを知る。 ・本を紹介したり，本の内容について対話したりする活動を通して，思考を深め，表現を豊かにする。	<第1時> 1 単元全体の目標を確認する。表現の窓「読書もまた一つの『経験』」 2 教科書P. 138～139の「表現の窓」を読んで内容を理解し，「読書の効用」についてグループで話し合う。読書ノート 3 読書記録の取り方や活用の仕方について情報交換し，「読書ノート」の作り方を確認する。 4 この単元での活動を通して読みたいと思った本を，読書ノートのリストに追加していくことを確認する。 <第2時> 図書室探検 1 図書室探検のやり方を確認する。 2 三～四人のグループで図書室に入り，十分間で各自がお宝本（読みたいと思った本）を一冊探してくる。 3 各自が探し出したお宝本をグループで共有する。 4 グループのお宝本に共通するテーマを話し合って考える。 5 共通テーマを表現するためのポスターを作る。 <第3時> 1 お宝本についてクラス全体の前でどのように発表するかを，グループで話し合う。 2 各グループのお宝本紹介をする。各自が自分のお宝本を紹介し，最後に			知技] ・話し言葉と言 特色について環 面，相手，手段 いを理解し，使 ・自分の思いや 必要な語句の選 ことを通して， いる。 ・省略や反復を を深め使ってい ・自分の思いや 豊かにする読書 深めている。 〔思判表〕 ・「話すこと 場に応じて，主 柄の中から話題 を想定しながら 合う内容を検討 ・「話すこと 思いや考えが合 配置するなど， る。 ・「話すこと 反応に応じて言 じて資料や機器 レ相手の同

ポスターを見せて本に共通するテーマを紹介する。

3 読んでみたいと思った本を読書ノートにリストに追加する。

<第4時>

ブックトーク

1 ブックトークのやり方を確認する。

2 教科書P. 131の「テーマの見つけ方」を参考にしながら、テーマを決め、テーマにふさわしい本を選ぶ。

3 どのように本を紹介するか考え、原稿を書く。

4 発表の際に配るレジュメを用意する。

<第5時>

1 発表の順番を決める。

2 話し手は七分以内で三冊紹介する。聞き手は配布されたレジュメにメモを取りながら聞く。

3 全部のブックトークが終わったところで読みたいと思った本を読書ノートのリストに追加する。その本をなぜ読みたいと思ったのかを振り返りに書く。

<第6時>

ブック・プレゼン・ダイアログ

1 ブック・プレゼン・ダイアログのやり方を確認する。

2 本を準備する。

3 グループで各自が分担するページを決める。

4 自分の担当ページを読み、B5判の用紙六枚程度に内容をまとめ、要約ポスターを作る。

<第7時>

1 グループ内で、ポスターを掲示しながらページ順に要約を発表し合い、全体内容を共有する。

2 他のグループの掲示を見て回り、気になるところに質問、コメントを書いた付箋を貼る。

3 グループに戻り、自分たちのポスターに貼られた付箋をもとに、グループ内で対話する。

4 グループ代表が対話内容を発表し、全体で共有する。

<第8時>

ビブリオバトル

1 ビブリオバトルのやり方を確認する。

2 今までの読書を振り返り、他の人に薦めたい本を選ぶ。

3 どのように本を紹介するか考え、発表の準備をする。

4 予選グループを決める。

<第9時>

1 予選グループ内で、発表とディスカッションを行う。

2 予選グループ内で投票し、チャンプ本を決める。

3 予選通過のチャンプ本を、クラス全体に向けて紹介し、ディスカッションを行う。

4 全体で投票し、クラスのチャンプ本を決める。

5 読んでみたいと思った本を読書ノートのリストに追加する。

と、相手の内容を工夫して聞く。

・「話すこと」を明確にして聞き手を感動を伝えたり、語り合う工夫をしたり深めたりする。

・「話すこと」の主張や論拠を明確に展開を助けたら、どう、考えを広げたり深めたりする。

・「書くこと」について、実社会の問題から適切な題材を選び、工夫して、伝える。

・「書くこと」の伝えられるよう、工夫するなど、文章の工夫。

・「書くこと」の伝えられるよう、工夫するなど、文章の工夫。

・「書くこと」の伝えられるよう、工夫するなど、文章の工夫。

・「書くこと」の伝えられるよう、工夫するなど、文章の工夫。

・「書くこと」の伝えられるよう、工夫するなど、文章の工夫。

・「書くこと」の伝えられるよう、工夫するなど、文章の工夫。

・「書くこと」の伝えられるよう、工夫するなど、文章の工夫。

・「書くこと」の伝えられるよう、工夫するなど、文章の工夫。

・「書くこと」の伝えられるよう、工夫するなど、文章の工夫。

・「書くこと」の伝えられるよう、工夫するなど、文章の工夫。

・「書くこと」の伝えられるよう、工夫するなど、文章の工夫。

・「書くこと」の伝えられるよう、工夫するなど、文章の工夫。

・「書くこと」の伝えられるよう、工夫するなど、文章の工夫。

・「書くこと」の伝えられるよう、工夫するなど、文章の工夫。

・「書くこと」の伝えられるよう、工夫するなど、文章の工夫。

・「書くこと」の伝えられるよう、工夫するなど、文章の工夫。

・「書くこと」の伝えられるよう、工夫するなど、文章の工夫。

・「書くこと」の伝えられるよう、工夫するなど、文章の工夫。

・「書くこと」の伝えられるよう、工夫するなど、文章の工夫。

・「書くこと」の伝えられるよう、工夫するなど、文章の工夫。

・「書くこと」の伝えられるよう、工夫するなど、文章の工夫。

・「書くこと」の伝えられるよう、工夫するなど、文章の工夫。

・「書くこと」の伝えられるよう、工夫するなど、文章の工夫。

・「書くこと」の伝えられるよう、工夫するなど、文章の工夫。

・「書くこと」の伝えられるよう、工夫するなど、文章の工夫。

	<第10時> 本の帯・ポップ作り 1 本の帯，ポップとはどういうものか確認する。 2 帯とポップ，どちらの形式で作成するか決める。 3 PRしたい本を選ぶ。 4 帯またはポップの構想を練り，作成する。 5 完成した帯またはポップを掲示し，互いに見て回る。 6 単元全体のリフレクションをする。			
情報活用力を身につけよう ・正確な情報を見極め，その情報を目的に合わせて効果的な表現で発信する。 ・相手意識を持ち，相手にとって有用な内容や理解しやすい表現を吟味する。	<第1時> フロントページ 1 教科書P. 140～149を読んで，報告書をもとに新たに広報資料を企画・制作する流れや，制作のポイントを確認する。 2 広報誌，ホームページなど，広報資料の種類について確認する。 3 生徒たちが持ってきた広報資料について，メディアの種類や発信元，想定される読者，紙面などの特徴を分析する。 4 広報資料の制作では相手意識，目的意識が大切であることを確認する。 <第2時> ステップ①企画立案・取材 1 グループを作り，グループのメンバーの持ってきた広報の中から，もとにする資料を一つ選ぶ。（ワークシートを活用してもよい。） 2 編集会議を行い，これから制作する広報資料では，伝える相手や媒体をどのように設定するか，考える。 3 どのような内容をどのような形で伝えたいか，編集方針を考える。 <第3時> 1 伝える相手，目的，媒体を確認し，それらに合わせてどのような情報が必要かを確認する。 2 不足している情報の収集方法，原稿や図版の作成，写真の撮影など，必要な作業を確認する。 3 締め切りを決め，スケジュールを確認する。 4 役割分担する。 <第4～6時> 1 各自の役割分担に合わせて，情報の収集や図版の作成，既存の資料をもとに書ける部分の原稿作成などを行う。 2 集めた資料や作成した原稿について内容を確認する。 3 担当者，あるいはグループの代表者などが，資料や原稿を集めて保管す			[知技] ・言葉には，自があることを理 ・話し言葉と書について理解を手，手段に応じし，使い分けて ・実用的な文章仕方などについて [思判表] ・「話すこと・や論拠を吟味しけたりするためげたり深めたりの出し方を工夫 ・「書くこと」実社会の問題や題材を決め，情伝えたいことを ・「書くこと」るよう，適切な反論などを想定文章の展開や構 ・「書くこと」るよう，適切な文章の構成や展 ・「書くこと」し，根拠となる表現の仕方を工 ・「書くこと」確にし，事象をなど，表現の仕 ・「書くこと」思いや考えが効かななどを吟味しからの助言など課題を捉え直し [主] 広報資料題に沿って読み合いながら協力としている。

る。
＜第7時＞
ステップ②編集・制作
1 編集会議の目的について確認する。
2 編集会議を開き、レイアウトやデザインを考える。
3 レイアウトやデザインを紙などに大まかに描き、全体のバランスを確認する。
4 読み手の立場で考えて、見やすいかどうか再度確認する。
5 原稿の文字数や図版の大きさなどを調整し、レイアウトを決定する。
＜第8～9時＞
1 写真や映像の掲載許可が取れているか確認する。
2 原稿や図版、写真や動画を、パソコンなどを使って紙面や画面に合うように組み合わせ、全体を形にする。
3 紙面や画面全体を見て、バランスのよしあしや見づらいところ、読みにくいところなどを確認し、修正して仕上げる。
4 レイアウトした広報資料をプリントアウトする。
＜第10時＞
1 「広報の目的に照らしてチェック」（教科書P. 147）を読み、校正のポイントを確認する。
2 プリントアウトした広報資料を校正する。
3 校正結果に合わせて、修正する。
4 完成した広報資料を保存またはプリントアウトする。
＜第11時＞
ステップ③発信
1 保存していたデータをアップロードしたり、紙に印刷して掲示したりする。
2 アップロードしたものや掲示したものに対する意見や感想などを聞く。
3 表現の仕方などで心がけた点、工夫に気づいた点を伝え合う。
＜第12時＞
表現の窓「読者への配慮」
1 教科書P. 152～153を読んで、本文の内容を確認する。
2 本文の構成・趣旨を確認する。
3 「読者への配慮」をする意味についてグループで話し合い、発表する。
4 単元全体のリフレクションをする。

○ ○ ○

	心をつかむ表現 ・日常生活上のことも含めた「表現」活動を振り返り、今後の「表現」をだいにする気持ちを養う。 ・表現の工夫が他者とのやりとりで重要であることを理解し、言葉を吟味し適切に使おうとする態度を養う	<第1時> 1 単元の目標と学習の流れを確認する。 2 教科書P. 188～193を読み、内容を理解する。 3 グループや隣どうしで、印象に残った部分を話し合う。 4 3で話し合った内容も踏まえて、考えたことをまとめる。 <第2時> 1 YOASOBI か高梨沙羅選手のどちらかを選び、文章を読んで考えたことを、箇条書きなどを用いて書き出す。 2 1で書き出した要素について、構成を決めて、文章にまとめる（三〇〇字程度）。 3 グループ内（隣どうし）で発表し合う。 4 単元全体のリフレクションをする。	○	○	○
					[知技] ・自分の思いやな語句の量を増して、語感を磨く ・省略や反復なめ使っている。 ・自分の思いやにする読書の意図。 [思判表] ・「話すこと・の合理性が伝わっていると同時に、を考えるなど、 ・「話すこと・に応じて言葉をや機器を効果的や共感が得られ ・「話すこと・にして自分の考や構成、論理のみに、聞き取ったり深めたり ・「話すこと・や論拠を吟味しけたりするためけたり深めたりの出し方を工夫 ・「書くこと」確にし、事象をなど、表現の仕 [主] 教材文を表現の在り方にて自分の表現に

科目 国語表現

単位

)

における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高

を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を

【学びに向かう力、人間性等】
言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

評価規準	知	思	態	配当 時数
「書くこと」において、言葉の特徴や役割、表現の特色を深く理解し、伝え合う目的や場面、相応しい適切な表現や言葉遣いを理解している。 「読むこと」において、考えを多彩に表現するために必要とする語彙を豊かにしている。 「聞くこと」において、目的や場に応じた適切な根拠を効果的に用い、相手の反論を想定して論理の展開や構成を工夫している。 「話すこと」において、自分の思いや考えを明確に伝え、相手の反応や態度に応じて資料に用いたりするなど、相手の同意を得ようとする態度を養っている。 「書くこと」において、自分の主張や考えを明確に伝え、相手の反応や態度に応じて資料に用いたりするなど、相手の同意を得ようとする態度を養っている。 「聞くこと」において、自分の思いや考えを明確に伝え、相手の反応や態度に応じて資料に用いたりするなど、相手の同意を得ようとする態度を養っている。				

している。
において、目的や意図に応じて、
自分に関わる事柄の中から適切な
報の組み合わせなどを工夫して、
明確にしている。
において、読み手の同意が得られ
根拠を効果的に用いるとともに、
して、論理の展開を考えるなど、
成を工夫している。
において、読み手の共感が得られ
具体例を効果的に配置するなど、
開を工夫している。
において、自分の考えを明確に
情報を基に的確に説明するなど、
夫している。
において、読み手に対して自分の
果的に伝わるように書かれている
て、文章全体を整えたり、読み手
を踏まえて、自分の文章の特長や
たりしている。
現する活動を通じて、相手に共感
り読んだりしてもらうために必要
く理解し、今までの学習を生かし
ようとしている。

○ ○ ○

--	--	--	--	--

己と他者の相互理解を深める働き
解している。
き言葉の特徴や役割，表現の特色
深め，伝え合う目的や場面，相
た適切な表現や言葉遣いを理解
いる。
考えを多彩に表現するために必要
し，話や文章の中で使うことを通
き語彙を豊かにしている。
などの種類や特徴，構成や展開の
て理解を深めている。

において，目的や意図に応じて，
自分に関わる事柄の中から適切な
報の組み合わせなどを工夫して，
明確にしている。
において，読み手の同意が得られ
根拠を効果的に用いるとともに，
して，論理の展開を考えるなど，
成を工夫している。
において，読み手の共感が得られ
具体例を効果的に配置するなど，
開を工夫している。
において，自分の考えを明確に
情報を基に的確に説明するなど，
夫している。
において，読み手に対して自分の
果的に伝わるように書かれている
て，文章全体を整えたり，読み手
を踏まえて，自分の文章の特長や
たりしている。
書く活動を通じて，設問に応じて
，根拠を明確にしながら論じるこ
解し，学習の見通しをもって自ら
ようとしている。

--	--	--	--	--

○



16

「き言葉の特徴や役割，表現の特色 深め，伝え合う目的や場面，相 た適切な表現や言葉遣いを理解 いる。 考えを多彩に表現するために必要 し，話や文章の中で使うことを通 き語彙を豊かにしている。 どの表現の技法について理解を深 考えを伝える際の言語表現を豊か 義と効用について理解を深めてい 聞くこと」において，目的や場 の問題や自分に関わる事柄の中か 他者との多様な交流を想定しながら 整理して 伝え合う内容を検討し				

正しく、関係者の意見を反映し

聞くこと」において、自分の思
よう、具体例を効果的に配置する
や展開を工夫している。
聞くこと」において、相手の反応
選んだり、場の状況に応じて資料
に用いたりするなど、相手の同意
るように表現を工夫している。
聞くこと」において、視点を明確
ら、話の内容に対する共感を伝え
いや考えを引き出したりする工夫
思いや考えを広げたり深めたりし

聞くこと」において、互いの主張
たり、話し合いの進行や展開を助
に発言を工夫するなど、考えを広
しながら、話し合いの仕方や結論
している。
において、目的や意図に応じて、
自分に関わる事柄の中から適切な
報の組み合わせなどを工夫して、
明確にしている。
において、読み手の共感が得られ
具体例を効果的に配置するなど、
開を工夫している。
において、自分の思いや考えを明
的確に描写したり説明したりする
方を工夫している。
し合う活動に積極的に取り組み、
生かして他者との交流を通して内
めたり、相手に伝わる表現を工夫
している。

○

○

○

書き言葉の特徴や役割，表現の理解を深め，伝え合う目的や場 段に応じた適切な表現や言葉遣 使い分けている。 や考えを多彩に表現するために 量を増し，話や文章の中で使う 語感を磨き語彙を豊かにして などの表現の技法について理解 いる。 や考えを伝える際の言語表現を 書の意義と効用について理解を ・聞くこと」において，目的や 実社会の問題や自分に関わる事 題を決め，他者との多様な交流 ら情報を収集，整理して，伝え 討している。 ・聞くこと」において，自分の 云わるよう，具体例を効果的に 話の構成や展開を工夫してい ・聞くこと」において，相手の 言葉を選んだり，場の状況に応 器を効果的に用いたりするな ぎや忖度が得られズトに表現				

思、共感が得られるように工夫する。

・聞くこと」において、視点をきながら、話の内容に対する共相手の思いや考えを引き出しをして、自分の思いや考えを広げている。

・聞くこと」において、互いの興味したり、話し合いの進行やするため、発言を工夫するなげたり深めたりしながら、話し結論の出し方を工夫している。

」において、目的や意図に応じ問題や自分に関わる事柄の中かを決め、情報の組み合わせなど云えたいことを明確にしてい

」において、読み手の共感が得適切な具体例を効果的に配置すの構成や展開を工夫している。

」において、自分の思いや考え事象を的確に描写したり説明し表現の仕方を工夫している。

介し合う活動に積極的に取り組学習を生かして他者との交流をの理解を深めたり、相手に伝わしたりしようとしている。

○

○

○

10

己と他者の相互理解を深める働き解している。 き言葉の特徴や役割，表現の特色深め，伝え合う目的や場面，相 た適切な表現や言葉遣いを理解 いる。 などの種類や特徴，構成や展開の て理解を深めている。				

聞くこと」において，互いの主張
たり，話し合いの進行や展開を助
に発言を工夫するなど，考えを広
しながら，話し合いの仕方や結論
している。
において，目的や意図に応じて，
自分に関わる事柄の中から適切な
報の組み合わせなどを工夫して，
明確にしている。
において，読み手の同意が得られ
根拠を効果的に用いるとともに，
して，論理の展開を考えるなど，
成を工夫している。
において，読み手の共感が得られ
具体例を効果的に配置するなど，
開を工夫している。
において，自分の考えを明確に
情報を基に的確に説明するなど，
夫している。
において，自分の思いや考えを明
的確に描写したり説明したりする
方を工夫している。
において，読み手に対して自分の
果的に伝わるように書かれている
て，文章全体を整えたり，読み手
を踏まえて，自分の文章の特長や
たりしている。
の目的を粘り強く理解し，学習課
手に伝えたい情報を吟味し，話し
して，よりよい広報資料を作ろう

○

○

○

10

考えを多彩に表現するために必要とし、話や文章の中で使うことを通じ、語彙を豊かにしている。 どの表現の技法について理解を深め、 考えを伝える際の言語表現を豊かにし、意義と効用について理解を深めている。 聞くこと」において、自分の主張を伝えるよう、適切な根拠を効果的に用い、相手の反論を想定して論理の展開、話の展開や構成を工夫している。 聞くこと」において、相手の反応を察し、選んだり、場の状況に応じて資料に用いたりするなど、相手の同意を得るよう表現を工夫している。 聞くこと」において、論点を明確にし、えと比較しながら聞き、話の内容の展開、表現の仕方を評価するとともに、得た情報を吟味して自分の考えを広げている。 聞くこと」において、互いの主張を聞き取り、話し合いの進行や展開を助けるために発言を工夫するなど、考えを広げながら、話し合いの仕方や結論を出している。 聞くこと」において、自分の思いや考えを明確に、具体的に描写したり説明したりする工夫を工夫している。 読んで、社会で必要とされていることについて考え、学習の見通しをもつようになり、生かそうとしている。	○	○	○	2
				合計
				70

高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 国語 科目 古典探究

教科：国語 科目：古典探究 単位数：2 単位

対象学年組：第 3 学年 A 組～ G 組
使用教科書：（新編古典探究 東京書籍 みるみる覚える古文単語300+30いわずな書店

教科 国語 の目標：

【知識及び技能】 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

科目 古典探究	の目標：	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
【知識及び技能】	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域		評価規準	知	思	配当 時数
			語 彙	書 読				
1 学 期	読む 枕草子 ・随筆の内容を自分と関係づけながら、ものの見方、感じ方、考え方を広げる。	☐ この作品の内容と作者について、今までの学習で得ていた知識とともに、簡単に整理し、理解する。 【ありがたきも】 1この章段の「ありがたし」の意味を、列挙されているものから類推する。（手引き1） 2列挙された事例の特徴を考える。（手引き2） 3『枕草子』のロディである『大枕』『尤之双紙』の一部を読み、内容を理解するとともに、それぞれの文法について考える。（古文の窓4） 4末尾の記述に表れている作者の心情を読み取る。（手引き3） 【雪のいと高う降りたるを】 1場面を読み取り、発音の主体と動作とを把握する。（手引き1） 2作者のどのような行動が中宮の心にかかったのかを読み取る。（手引き2） 3女房たちが作者をどのように評価していたかを読み取る。（手引き3）	○	○	【加註】 ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き読解を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や語序、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辭などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 ・時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにわたらした影響について理解を深めている。 【思判表】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などの的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。	○	○	10
	読む 小話―三編〔言語〕 ・話の展開や内容のおもしろさ味わい、さまざまな人間の考え方を比較する。	☐ 『十八史略』について、第1部で学習した内容を振り返る。 ☐ 第1部の「三国志の世界」の登場人物について、誰に共感したかを述べ合う。 【読解壁障】 1全文を音読する。 2書き下し文を正確に記述する。（手引き1） 3全文を正確に音読した後、主語を確認しながら内容を正確に捉えて現代語訳する。（手引き1） 4疑問形・二重否定・反語形・使役形の用法を確認する。 5帝堯が入手した情報についてまとめる。（手引き2） 6本文から読み取れる帝堯の人物について整理する。（手引き3） 7「読解壁障」の意味を考える。（手引き4） 【宋襄之仁】 1全文を音読する。 2書き下し文を正確に記述する。（手引き1） 3主語を確認しながら内容を正確に捉えて現代語訳する。（手引き1） 4受身形の句法を確認する。 5楚軍に対する、日夷と襄公の対応の違いをまとめる。 【燕雀安知鴻鵠之志哉】 1全文を音読する。 2書き下し文を正確に記述する。（手引き1） 3第一段落について、主語を確認しながら内容を正確に捉えて現代語訳する。（手引き1） 4仮定形と反語形の句法を確認する。 5陳勝の離者に対する発言と、離者の返答、それに対する陳勝の気持ちをまとめる。（手引き2） 6全文を音読した後、第二段落について主語を確認しながら内容を正確に捉えて現代語訳する。（手引き1） 7二人称「君」について確認する。 8全文を正確に音読する。 9陳勝の従軍に対する発言について、どんな点に説得力があったのかをまとめる。（手引き3） 10反語形の句法を確認する。 11志を立てる意味の故事成語についてまとめる。（手引き4） ☐ 「読解壁障」「宋襄之仁」「燕雀安知鴻鵠之志哉」の登場人物の言動を確認し、その人物を語る。 ☐ この単元で学習した疑問形・二重否定・使役形・受身形・仮定形・反語形の各句法についてまとめる。	○	○	【加註】 ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き読解を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典を理解するために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 ・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 【思判表】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などの的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりしている。 【主】 積極的に文章のおもしろさ味わい、登場人物の言動等の記述からその人物や考え方について考察しようとしている。	○	○	8

2 学 期	伊勢物語	□歌物語の特徴および『伊勢物語』について、背景の事項を整理する。 【初冠】 1本文を現代語訳し、内容を読み取る。(手引き1) 2「春日野の…」の歌と「陸奥の…」の歌を比較し、前者の表現の工夫をまとめる。(手引き2) 3最終部の評語から、この章段の主題を考える。(手引き3) 【渚の院】 1本文を読み、あらすじを把握する。 2それぞれの歌における工夫について理解する。(手引き1・2) □『伊勢物語』を例に、歌物語の特徴をまとめ、理解する。	○	○				【知技】 ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辭などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 【思悟表】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 【主】積極的に歌物語の特徴について理解し、今までの学習を生かして、登場人物の心情や作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。	○	○	○	8
	大和物語〔言語〕	□作品についての解説を聞き、概略を理解する。 □嫉妬伝説を知り、興味を持つ。 【嫉妬の発露】 1話を理解する。 2「をば」を山に捨てるとまで男の気持ちちがどのように変化しているかをまとめる。(手引き1) 3男が「をば」を迎えに行ったきっかけを読み取る。(手引き2) □各地に伝わる嫉妬伝説について調べて、発表する。(言語活動) □『伊勢物語』と比較し、歌物語としての『大和物語』の特質を理解する。	○	○				【知技】 ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辭などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 【思悟表】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 【主】積極的に歌物語の特徴や古典における和歌の効用について理解し、今までの学習を生かして人物の心情を理解し、嫉妬伝説についての自分の考えを深めようとしている。	○	○	○	8
	古体詩一五首 ・内容や表現の豊かさを理解し、詩にうたわれた情景や心情を読み味わう。	□近体詩の特色を思い出してみる。 □近体詩と古体詩の詩形の違いについて学習し、「桃天」を例として確かめる。(手引き4) 【桃天】【上邪】 1詩を正確に読んで書き下し、繰り返し朗読する。(手引き1) 2詩形と押韻を確認する。(手引き4) 3展開に注意して現代語訳し、「桃天」「上邪」にうたわれた主題や作者の心情を考える。(手引き2) 4理解した詩の内容をもとにそれぞれ暗唱する。 【飲酒】【子夜呉歌】 5詩を正確に読んで書き下し、繰り返し朗読する。(手引き1) 6詩形・押韻・対句を確認する。(手引き4) 7展開に注意して現代語訳し、「飲酒」「子夜呉歌」にうたわれた主題や作者の心情を考える。(手引き2) 8理解した詩の内容をもとにそれぞれ暗唱する。 【長恨歌】 1全体を範読に従って繰り返し朗読して、大体のあらすじを把握する。(手引き1) 2全体を八つの場面に分け、その内容を把握する。(手引き3) 3第一、二、三場面から、楊貴妃の生い立ち、美しさ、漢皇(玄宗)の様子や寵愛ぶり、それを取り巻く人々の対応などを読み取る。 4第三場面から、安祿山の進攻による楊貴妃の死を捉える。 5第四場面から、楊貴妃没後の行宮における漢皇(玄宗)の描写を読み取る。 6第四場面から、長安に戻る途中での楊貴妃の死亡場所における情景を読み取る。 7第五場面から、長安に戻った後の宮廷をはじめ漢皇(玄宗)の様子を読み取る。 8第六場面から、道士による不思議な仙術を読み取る。 9第七、八場面から、仙山の様子と、そこに住む楊貴妃の霊魂と道士との幻想的対応の表現を味わう。 10第七、八場面から、二人の「誓い」の内容を把握する。 11「長恨歌」という題に込められた意味を考える。 □古詩五首の中で印象に残ったものを取り上げ、鑑賞文を書く。 □参考の『源氏物語』(桐壺)を読んで、「長恨歌」からの影響を考える。	○	○	○			【知技】 ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辭などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 【思悟表】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を読まねがら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 【主】積極的に自読書の「長恨歌」について調べ、今までの学習を生かして、日本文学に大きな影響を与えた理由について考察しようとしている。	○	○	○	8
	大鏡	□歴史物語としての『大鏡』の特色を簡略に理解する。 □古老たちが見聞した昔話を若侍に語るとい叙述方法は、どのような効果をもたらすかを考える。 【道長の左遷】 1登場人物を確認する。(手引き1) 2帝の処置の厳しさと、「東風吹かば…」の歌に表れた道長の心情を読み取る。(手引き2) 【道長、伊周の鏡射】 1道長と道隆・伊周との関係を確認する。 2勝負の延長を要求した道隆の意図と、それを受けての道長の言動について、伊周と比較しつつ考える。(手引き1・2) 3勝負の結果を受けての道隆の心境と、その後の展開を考える。(手引き3)	○	○				【知技】 ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辭などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 【思悟表】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を読まねがら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 【主】積極的に歴史物語の人物関係や時代背景について調べ、今までの学習を生かして登場人物の心情や人物像についての理解を深めようとしている。	○	○	○	8

高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 国語 科目 論理国語

教 科： 国語 科 目： 論理国語 単位数： 単位 2

対象学年組：第 3 学年 A 組～ F 組

使用教科書：（大修館書店 新編論理国語）

教科 国語 の目標：

- 【知 識 及 び 技 能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。
- 【思考力、判断力、表現力等】「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。
- 【学びに向かう力、人間性等】言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。

科目 論理国語 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
他者と関わる現実の社会において必要な国語の知識や技能について理解し、それを適切に使おうとしている。	論理的に考えることに加え、章や資料を対象化して、その正誤や適否を吟味したり検討したりしながら考えている。また、他者の考えと自分の考えを吟味したり検討したりすることを通して、自分で新しい考えを生み出そうとしている。さらに、状況や場面に応じた他者との関わりの中で、必要な事柄を正確に伝え、相手の意向を的確に捉えて解釈したり、効果的に表現したりしている。	言葉によって自分の考えを形成したり新しい考えを生み出したりしようとしている。また、言葉を通じて他者や社会と関わり自他の存在について理解を深めようとしている。さらに、現代社会に関わる話題や問題に幅広く関心を持ち、生涯にわたる読書習慣の基礎を築き、社会人として、考えやものの見方を豊かにしようとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
			話・聞	書	読					
1 学 期	探究する力 【知・技】 (1)エ 【思・判・表】 B (1)ア	・「学ぶ」ことについての筆者の考えを読み取る。 ・これからの学習で取り組みたいこと、興味のあることについて考える。			○	【知識・技能】 ・効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開のしかたについて理解を深めている。【(1)エ】 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、内容や構成、論理の展開などを的確にとらえ、論点を明確にしながら要旨を把握している。【B (1)ア】 【主体的に学習に取り組む態度】 ・学ぶことについての筆者の考えを読み取ることに興味を持ち、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようとしている。	○	○	○	7
	補助線を引きながら考える 【知・技】 (1)イ 【思・判・表】 B (1)ア	・「論理」についての筆者の考えを読み取る。 ・筆者の主張をふまえ、これからの学習に興味をもつ。			○	【知識・技能】 ・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。【(1)イ】 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、文章の内容や構成、論理の展開などを的確にとらえ、論点を明確にしながら要旨を把握している。【B (1)ア】 【主体的に学習に取り組む態度】 ・論理についての筆者の考えを読み取ることに興味を持ち、論理的に考える力を伸ばそうとしている。	○	○	○	4
	定期考査				○		○	○		1
	和の思想、間の文化 【知・技】 (1)イ (2)イ 【思・判・表】 B (1)ア	・具体と抽象の関係を意識しながら、筆者の主張を読み取る。			○	【知識・技能】 ・具体と抽象を示す語句や表現を理解し、文章を読む中で具体と抽象の関係をとらえる助けとしている。【(1)イ】 ・情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深めている。【(2)イ】 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、具体と抽象の関係に注目し、内容や構成、論理の展開などを的確にとらえ、論点を明確にしながら要旨を把握している。【B (1)ア】 【主体的に学習に取り組む態度】 ・具体と抽象の関係を的確にとらえながら、筆者の主張を読み取ろうとしている。	○	○	○	6
	ミロのヴィーナス 【知・技】 (1)イ (2)イ 【思・判・表】 B (1)ア	・具体例の役割を意識して本文を読み、論理の展開をとらえる。 ・文章の構成や接続表現に注目しながら、筆者の主張を読み取る。			○	【知識・技能】 ・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。【(1)イ】 ・情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深めている。【(2)イ】 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、文章の種類をふまえて、内容や構成、論理の展開などを的確にとらえ、論点を明確にしながら要旨を把握している。【B (1)ア】 【主体的に学習に取り組む態度】 ・共進化についての筆者の考えを読み取ることに興味を持ち、具体と抽象の関係をとらえようとしている。	○	○	○	6
	定期考査				○		○	○		1
	人類の進化から考える「心」の誕生 【知・技】 (1)イ 【思・判・表】 B (1)ア	・具体と抽象の関係を意識しながら、筆者の主張を読み取る。			○	【知識・技能】 ・対比を示す語句や表現を理解し、文章を読む中で対比の関係をとらえる助けとしている。【(1)イ】 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、対比の関係に注目し、内容や構成、論理の展開などを的確にとらえ、論点を明確にしながら要旨を把握している。【B (1)ア】 【主体的に学習に取り組む態度】 ・対比の関係を的確にとらえながら、筆者の考えを読み取るうとしている。	○	○	○	6

2 学 期	ロボットに心はあるか 【知・技】 (1)イ 【思・判・表】 B (1)ア	・対比の役割を意識して本文を読み、論理の展開をとらえる。 ・文章の構成や接続表現に注目しながら、筆者の主張を読み取る。		○	【知識・技能】 ・対比を示す語句、接続表現に注目しながら文章を読み、対比関係や論理展開をとらえる助けとしている。〔(1)イ〕 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、対比の関係に注目し、内容や構成、論理の展開などを的確にとらえ、論点を明確しながら要旨を把握している。〔B (1)ア〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・コミュニケーションについての筆者の考えを読み取ることに興味をもち、対比の関係をとりえようとしている。	○	○	○	6
	定期考査			○		○	○		1
	政治の本質 【知・技】 (1)イ (2)ア 【思・判・表】 B (1)ア	・主張と根拠の関係を意識しながら、筆者の主張を読み取る。		○	【知識・技能】 ・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。〔(1)イ〕 ・主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めている。〔(2)ア〕 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、文章の種類をふまえて、内容や構成、論理の展開などを的確にとらえ、論点を明確にしながら要旨を把握している。〔B (1)ア〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・主張と根拠の関係を的確にとらえながら、筆者の考えを読み取ろうとしている。	○	○	○	6
	「である」ことと「する」こと 【知・技】 (1)イ (2)ア 【思・判・表】 B (1)ア・ウ	・筆者の主張と、それを支える根拠の役割を的確にとらえる。 ・文章の構成や論理の展開に注意しながら、要旨を把握する。		○	【知識・技能】 ・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。〔(1)イ〕 ・主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めている。〔(2)ア〕 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、文章の種類をふまえて、内容や構成、論理の展開などを的確にとらえ、論点を明確にしながら要旨を把握している。〔B (1)ア〕 ・「読むこと」において、主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈している。〔B (1)ウ〕 【主体的に学習に取り組む態度】	○	○	○	6
3 学 期	人口減少社会の到来 【知・技】 (1)イ 【思・判・表】 B (1)イ	・さまざまな統計資料を本文と関連づけながら読む。 ・統計資料と筆者の主張の関係を的確にとらえる。		○	【知識・技能】 ・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。〔(1)イ〕 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、文章と資料との関係を把握し、内容や構成を的確にとらえている。〔B (1)イ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・消費意識についての筆者の考えを読み取ることに興味をもち、文章と資料の関係をとりえようとしている。	○	○	○	6
	定期考査			○		○	○		1
	未来の地図帳 【知・技】 【思・判・表】 B (1)ウ	・異なる立場の文章を比べて読み、考えを深める。 ・対比の役割を意識して本文を読み、論理の展開をとらえる。		○	【知識・技能】 ・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。〔(1)イ〕 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈している。〔B (1)ウ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・情報を的確に比較・整理しながら、紙の本についての筆者の考えを読み取ろうとしている。	○	○	○	6
	エネルギー耕作型文明への転換 【知・技】 (1)イ 【思・判・表】 B (1)ウ	・異なる立場の文章を比べて読み、考えを深める。 ・具体例の役割や根拠に注意しながら筆者の主張を読み取る。		○	【知識・技能】 ・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。〔(1)イ〕 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈している。〔B (1)ウ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・情報を的確に比較・整理しながら、情報化社会についての筆者の考えを読み取ろうとしている。	○	○	○	6
	定期考査			○		○	○		1
									合計
									70